

市政 刷新

2014年 春号

発行者／福岡市議会議員 調崇史（民主・市民クラブ）

すぐ動く！よく働く！**調たかし**
福岡市議会議員（城南区）



議員生活も4年目になります。
集大成の一年と意気込んで
議会活動、地域活動に
精励したいと思います。

議会活動！

中央保育園問題で当局を追及・前例無視の追加補助金に反対！

平成26年第1回定例議会（2月17日～3月25日）では、中央区今泉に建設が進む中央保育園に対し3,568万円の追加補助金を支出する内容の補正予算案が提出されました。中央保育園の移転新築を巡っては、移転用地がラブホテルやパチンコ店などに隣接するなど周辺環境に問題があることや、前面道路が狭隘なことから災害時に300人の児童をどのように避難させるのかなどを不安視する保護者や保育士から強硬な反対意見が上がり、説明のため当局が着工を延期した経緯があります。3,568万円の補正は、着工の遅れによって生じた追加の工事費用の大半を福岡市が負担するための支出でしたが、以下にご報告するような経緯でこの議案に反対しました。

■前例のない「追加」補助金

保育園の新設にあたっては、建物の建築費の4分の3が公費でまかなわれます。福岡市が公金で実質的に負担するのは12分の1ですが、福岡市ではこの負担分を補助金として支出しています。実は過去に保育園の新設工事にあたって「追加」の補助金が支出された前例はありません。というのも、補助金は当局が定める「要綱」のルールに従って支出されており、その要綱には追加補助金に関する規定がそもそもなかったためです。

「なぜ中央保育園だけが特別扱いされるのか」。その疑問を明らかにするために、関係する資料をよくよく精査したところ、補助金の要綱が今年1月1日付で改定されていたことが分かりました。

■秘密裏に行われたルール改定

1月1日付で改定された「保育所建設費等補助金要項」には、「市長が必要と認める場合」に追加で補助金を出せる旨の規定が追加されました。また、附則には経過措置として、要綱改定以前の補助事業についても、市長が必要と認める場合に追加補助金を出せる旨が規定されました。書き加えられたこの2つの新たなルールによって、中央保育園への追加補助金が可能になったことが読み取れます。

しかし、中央保育園の移転事業は用地選定の過程で市政トップの関与が取り沙汰されるなど、議会で度々問題になってきたトピックです。ルール改定が議会に何の報告もなく行われたことに怒りが湧きました。

■ルール無視の「問題答弁」

補正予算の審議では、中央保育園に追加補助金を出すために当局が議会に何の報告もなくルール改定を行なったことは「甚だしい議会軽視である」として当局の見解を聞いたが、当局は「補助金の要綱はなくとも、地方自治法232条2項の規定により追加の補助金を出すことは可能だ」とする答弁に終始しました。

しかし当局が答弁で取り出した地方自治法の規定は、そもそも地方地自体が補助金や負担金などを支出できる大元の根拠条項に過ぎず、個々の補助金の支出については要綱に従って行わなければならぬというのが「常識」です。当局の見解は常識を疑う問題答弁であり、繰り返し修正を求めていました。



トピックス



水はけが悪い梅中グラウンド 改修工事の予算が確保されました！

平成26年度の当初予算は3月25日の本会議で可決成立しました（大枠の予算概要是裏面をご参照下さい）。この予算の中で、梅林中学校のグラウンドの改修工事に関する費用が確保されましたので、ご報告したいと思います。

同校では昨年の運動会のときにも前日の雨の影響で開始が遅れたように、七隈小学校など周辺他校のグラウンドと比較して水はけの悪さが際立っており、ちょっとした雨でも体育の授業や部活動に影響を及ぼしている現状があるということを多くの方から耳にしていました。

今回、予算が確保された補修工事により、グラウンドの表面を削って元来の傾斜のある形状に整地しなおすのと同時に、地下に埋設されている排水用のパイプが問題なく機能しているかの確認作業が行われます。工期は短期間の見通しであり、今後、教育委員会と学校とで日程調整が行われることです。

ちょっとした雨で使えないようなグラウンドでは気骨ある若者が育ちません…というのは、いさか精神論が過ぎるでしょうが、ともあれ、卒業生の1人として引き続き思いを寄せてていきたいと思います。

クローズアップ 集団回収に取り組まれている皆さまへ！

■アルミ缶回収の報奨金が「10倍」に！

平成26年度の当初予算議会では、ゴミ置き場などからアルミ缶などの資源物を持ち去る行為が罰則付きで禁止される条例が成立しました。この条例の施行に合わせて、各町内会や子ども会などが行なっている地域集団回収で集まった資源物のうち、アルミ缶とスチール缶に限って、福岡市から支払われる報奨金が平成26年、27年の2年間限定で10倍になりました。新聞等の古紙に関してはこれまで通り1キログラム当たり5円ですが、アルミ缶とスチール缶は1キログラム当たり50円となります。

これまで報奨金を受け取っている団体については、特に新たな手続きは必要ありません。なお、この機会に集団回収に取り組んでみようと思われる方もいらっしゃるかと



思いますので、以下、簡単に仕組みと手続きを紹介します。

報奨金の対象となる団体は、自治会、町内会、子ども会、老人クラブ、PTA、マンション管理組合など地域住民で組織される団体で、過去の実績では野球などのスポーツチーム、NPO法人なども対象団体になっています。こうした団体のうち、区役所の生活環境課で所定の申込書を提出し、登録を済ませたものが集団回収を行なった場合に、年末に資源物の引き取り業者から出される重さの報告をベースに、一年分を一括して報奨金が団体の代表者に支払われます。

詳しくは区役所生活環境課にお問い合わせ下さい。



アルミ缶回収の報奨金10倍

新聞等 の古紙	従来通り 5円/1kg
アルミ缶 スチール缶	2年間限定10倍 50円/1kg

福博 そうつく言ひ

福岡市の「救命率」は全国トップレベル

平成26年度の予算勉強会の中で、耳よりな話がありましたがのでご報告します。タイトルの通りなのですが、福岡市の「救命率」は全国でもトップレベルの高さなのだそうです。

「救命率」は119番通報を受けて救急隊員が駆けつけた際に心肺停止状態だった急患のうち、どれだけの人が1ヶ月後に生存しているか、「社会復帰を果たせたか」を示したもので、1ヶ月後生存率は全国平均が11.4パーセント、社会復帰率では7.2パーセント（ともに平成23年）となっています。こうした中、福岡市では1ヶ月生存率が32.7パーセント、社会復帰率が22.8パーセント（ともに平成24年）と全国平均をはるかに上回っているのです。背景には、福岡市の医療環境が整っていることなど様々な要因があるでしょうが、119番通報から救急隊の現場到着までの所要時間の平均が全国と比較して短いこと、つまり現場にいち早く駆けつけてくれている救急隊員の努力によるところも大きいと思います。

健康維持には積極的であります。しかし、心強い救急体制があるというのは、暮らしの安心につながります。市民として、何とも誇らしいデータだと思いました。

調 崇史 プロフィール

1978年 4月17日生 36歳

- 1978年 ● 福岡市生まれ
- 1991年 ● 七隈小学校卒業
- 1994年 ● 梅林中学校卒業
- 1997年 ● 修猷館高校卒業
- 2002年 ● 九州大学法学部卒業
- 2010年 ● TNCテレビ西日本入社
- 2011年 ● 同社退社
- 2011年 ● 福岡市議選初当選

現在、金山団地在住 妻と3女



ツイッター・フェイスブックなどと連動したサイトで、日々の活動の様子を紹介しています。
また、オフィシャルサイトからは市政に対するご意見を送れます。皆様の声を聞かせて下さい！



www.t-shirabe.net/

調たかし 市政相談所

ぜひ、お立ち寄りください
〒814-0131
福岡市城南区松山2-5-5
志のぶビル201号
※市営地下鉄 金山駅から徒歩3分
七隈本町バス停から徒歩1分
TEL:092-834-9984
FAX:092-834-9983
mail:info@t-shirabe.net

調たかし 検索